

2019年8月  
(No.53)

# あこう社協だより



まち発見!あこう福祉ニュース .....	8P
令和元年度三世代交流事業助成先決定 .....	9P
あなたの善意を赤穂市善意銀行へ 要約筆記ボランティア養成講座	
県社協 地域福祉活動支援事業の案内 .....	10P
知っ得あんしんみんなの介護保険Q&A .....	11P
心配ごと相談所日程	
ちょっといい話 .....	12P
あこうのホットな人 No.28	

(特集)  
子ども×ふくし×学校



特集

# 子ども×ふくし×学校

「福祉」と聞いてあなたは何を思い浮かべますか？あるところで、大人と子どもに向けて、こんな質問をする、大人は「制度」や「法律」、「介護」などと答えたそうですが、子どもは「しあわせ」と答えたそうです。

大人はついサービスや仕組みについて考えがちですが、次代を担う子どもたちが考える福祉のかたちとは？子どもたちと学校、そして地域や福祉との関係について、社協の取り組みを通して紹介します。

**子どもだって色々勉強して考えているよ！**  
**子ども×学校×社協**

赤穂市社会福祉協議会では、福祉に関する学習を行っている市内の全小・中・高校を応援する『福祉協力校指定事業』を行っています。キャップハンディ学習のお手伝いや、

赤い羽根共同募金を活用した助成金の交付で、学校を支援しています。

**キャップハンディ学習って？**



『キャップハンディ』とは、『ハンディキャップ（不利な条件）』の前後を入れ替えて作られた言葉で、「立場を入れ替えて考えて考えよう」という意味が込められています。キャップハンディ学習では、実際にハンディキャップを持った人の状況を疑似体験することで、「自分がその立場だったら？」と、相手の置かれている状況や環境に対して改めて考えます。また、障がいの有無にかかわらず、みんなが安心して暮らせる地域について考えるきっかけづくりを目的とした取り組みで、赤穂市内の各学校で実施されています。

**どんなことを体験するの？**



キャップハンディ学習には6つのメニューがあります。

- ① **手話学習**…手話をはじめとした、耳の聞こえない方とのコミュニケーション方法について学ぶ
  - ② **盲導犬学習**…実際に盲導犬に触れて知る
  - ③ **点字学習**…点字盤を使い、目の見えない方の文字を学ぶ
  - ④ **アイマスク体験学習**…アイマスクを付け、目の見えないう方の気持ちと、ガイドする側の気持ちを体験する
  - ⑤ **高齢者疑似体験学習**…重りやゴーグルを付け、加齢に伴う変化を学ぶ
  - ⑥ **車いす体験学習**…車いすの操作方法や介助方法を通じて学ぶ
- どの学習でも、当事者の方の気持ちや体験できる内容になっています。

盲導犬学習

可愛いだけじゃない、その役割



講師：清水 幸代さん  
盲導犬フォンク



フォンクは色んなことができるのがすごいと思いました。盲導犬は優しい犬だと思いました。



点字学習

凹凸で伝わる言葉



講師：赤穂点灯会

点字を打つ時は準備も大変だし、読む人も最初は苦労するけど、点字がなかったら、目が見えない人はそれ以外で文字を読む方法がないから、点字は大切だと分かりました。



手話学習

思いを伝える方法は一つじゃない



講師：霜田 直宏さん(左)  
兒島 佳織さん(右)

日本中の人を手話ができるようになって、耳が聞こえない人もみんなと会話ができるようにしたいと、この勉強で思いました。



アイマスク体験学習

見えないからこそ見えてくること



講師：三宅 秀和さん

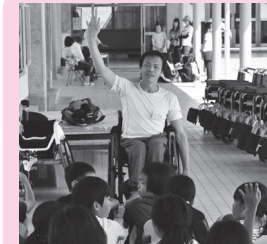


アイマスクをして学校を1周してみると階段がすごく怖かったです。福祉の勉強で優しさの輪を広げていけたらいいなと思います。



車いす体験学習

人の思いは段差も壁も乗り越えられる



講師：枝川 哲也さん



大事なのは、サポートする人と、サポートをしてもらう人の信頼関係だと思いました。もし自分が車いすの人を見かけたら、勇気を出して声かけができたらいいなと思いました。



高齢者疑似体験学習

60年後の自分になる



おばあちゃんが「体が重い」や「よっこらしょ」と言うのはなんでだろうと思っていたけど、体に重りをつけた時、本当に体が重い時ってあるんだということが分かりました。

立場を  
入れ  
替  
え  
て  
初  
め  
て  
気  
付  
く  
こ  
と

# 子ども×学校×取り組み

他には学校で  
どんな取り組みを  
しているの？



赤穂市内では小・中・高校全16校が福祉協力校として指定されていて、それぞれ独自の取り組みを行っています。

今回は有年小学校の取り組みを紹介します。



有年小学校では、先に紹介したキャップハンディ学習の他に、地域の方と連携した取り組みが行われています。

<p>地域ボランティアによる生け花指導</p>	<p>千種の苑の利用者と交流会を開催</p>	<p>親子福祉体験</p>
<p>里山体験</p>	<p>運動会に地域の方や千種の苑の利用者を招待</p>	<p>田植え体験</p>
<p>東有年田園ふれあいまつりにて有年っ子音頭披露・街頭募金</p>	<p>ふれあい合同音楽会に地域のひとり暮らし高齢者を招待</p> <p>地域のひとり暮らし高齢者に年賀状を書く</p>	<p>長谷川探検</p>

## 親子福祉体験に参加した保護者の声



すごくいい勉強になっているなと思います。講師の方が、生活していく中での不自由などを語ってくださっている時、子どもは普段とは違う表情で、真剣に聞いていました。ぜひ、この貴重な体験を続けてほしいと思います。

今回が特別ではなく、日頃から誰に対しても、自分の思いを伝えるために相手に合った表現ができるようになったり、相手を知ろうとしていけるよう、親子で考えていきたいです。



西有年自治会長

上山 保さん



地域は学校の応援団です

西有年自治会長の上山保さんは地域の役員と共に、里山体験や田植え、長谷川探検など、地域で行われるさまざまな体験学習を通して、子どもたちの成長を見守っています。

「地域と学校とのつながりが、伝統として続いている。良いことだから、ここまで続いているのだと思います。昔は子どもが自然の中で遊びを見つけていましたが、今はその機会を里山体験などで提供しています。例えば、木の匂いや味が春と秋で違うことを、子どもは体験の中で初めて知るんですよ」

里山体験で子どもたちが

皮を剥いた木は、上山さんの手で帽子掛けになり、教室に置かれています。

「福祉の授業や地域とのつながりを通じて、相手の気持ちに分かり、自ら行動に移せるような子になってほしいですね」と上山さん。「そうしていつか、成長した子どもたちが、有年の伝統を引き継いでくれたら、最高ですね」

地域と学校の良い関係は、これからも続いていきます。



生け花ボランティア  
橋本 晴美さん(右)  
山本 隆子さん(左)



美しいものを通じて 子どもたちに学んでほしい

タイムツソウ、アジサイ、グラジオラス、キキョウー。図工室に持ち込まれた色とりどりの花。有年小学校で昼休みの時間を利用して月に1回開催している生け花教室で使われる花です。

ボランティアで子どもたちに生け花を教えている橋本さんと山本さん。2人の活動は10年以上前から続いています。「何にしようかな」1年生から6年生の子どもたちが次々と入ってきて、思い

思いの花を選び、慣れた手つきで生けていきます。最近では自分から「この花の名前なに？」と積極的に聞きにくる子や、休んでいる子の分も花を生けてあげる子もいて、先生もその変化に驚いています。

「花を前にした子どもの輝く顔が楽しみです」と橋本さん。「日々きれいなものや美しいものに触れていると、心が癒やされ、ゆとりが生まれる。人がいる所に必ず花あり」そんな地域にしたいと話します。

山本さんは、「花だけでなく、自然や生きているもの、友達を大切にしている子になってほしい」と願っています。

また2人は、「花を生けていると、さまざまな視点から違った美しさが発見できます。人も同じ。生け花を通じて、悪い所だけでなく、見方を変えて良い所に気付くような子になってくれたら」との思いを花に込め、子どもたちに伝えていきます。



福祉教育担当

平岡 育穂 先生



体験したことが  
子どもたちの  
未来につながる

福祉の体験をしたら、すぐに子どもたちが変わるといふわけではなく、体験後の継続した学習や関わりを大事にしています。今回の体験で勉強したことに興味を持ってくれた子がいて、とても嬉しく思いました。

体験すると、知識だけではなく、身をもって相手のことを考えることにつながります。例えば、高齢者だから杖をついてる、とはなく、

高齢者疑似体験で杖を使ったら腰が楽だったことから、杖をついているのは腰が

痛いからなのかな？席を譲ってあげようかな？と、考えて自然に行動できるというのは、教科書の勉強だけでは経験できない大切なことです。キャップハンディ学習は特別なことではなく、お互いに助けあうことや感謝することを学ぶことで、日常的に友達や家族を大事にすることにつながると思います。

また地域の皆さんが、子どもたちを自分の孫のように思い、色々声をかけてくださるのが、本当にありがたいです。福祉教育や地域とのつながりが、子どもたちが将来、就職や何か困難なことに会った時など、色々な場面での考えるきっかけになってくれたらと願いながら、日々取り組んでいます。

江尻 裕亮 校長



大切なものを  
大切にできる子どもに

「共生」一人ひとりを理解して共に生きていく、ということを教育のテーマとしています。キャップハンディ学習も親子で学べるように、企画しています。体験するということが重要で、知識として学んだことを心にスッと落とし込んで、身をもって知ることが大事だと考えています。

地域や福祉と連携した学習の取り組みも今年で27年目を迎えました。福祉関係者の方や地域の方にも本当に

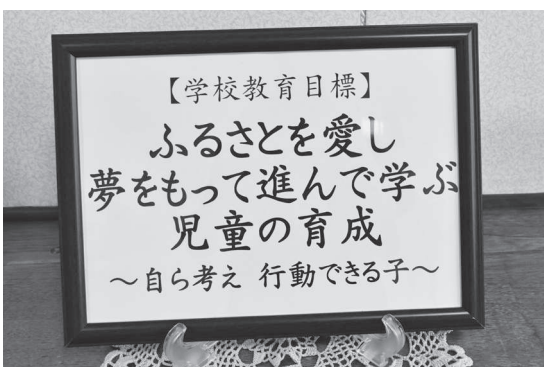
お世話になっていて、皆さんの協力があってここまで続いてきたと感謝しています。

学校としては、体験だけで終わらせないように気をつけています。事前学習から事後学習まで、子どもが自分から意識して取り組めるような指導を心がけています。そのおかげか、学校全体の雰囲気がとても温かいと感じます。



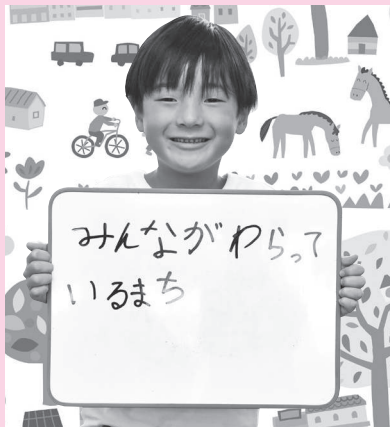
▶ 手話学習の様子

例えば誰かが転んだら、すぐに他の子が飛んできて「大丈夫？」と言います。からかって笑うような子はいません。長年育まれてきたものだと思います。有年小学校では、全学年を通じて地域の方々と生命と触れ合う体験授業を行っていて、そのことが子どもたちの温かい気持ちづくりにつながっているのではと考えています。相手のことを思いやって行動する、一人ひとりを認め共に生きていくことを、これからも子どもたちに伝えていきたいと思っています。



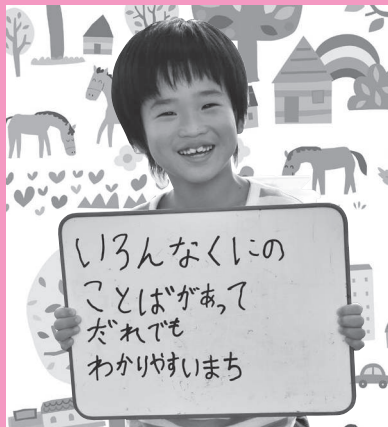
ぼくたち・わたしたちが学んで考えた

# 『こんなまちになったらいいな』



このぶ るい  
1年生 是信 月希 さん

手話学習で、耳が聞こえない人も手話でお話できて楽しかったのでもっと手話のことが知りたくなりました。  
みんなでお話したり、歌を歌ったり、みんなも、耳の不自由な人も笑う、楽しいまちになったらいいな。



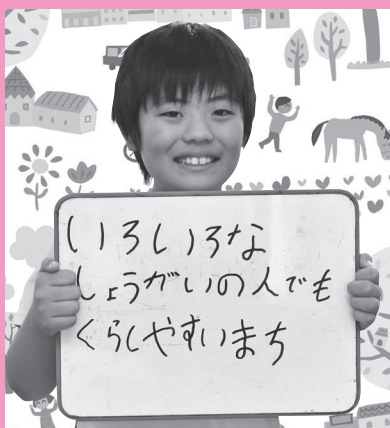
やまたに あやと  
2年生 山谷 彩人 さん

手話学習で、手話で歌を歌って楽しかったです。  
外国の人や耳が聞こえない人、目が見えない人にも分かるようにまちの色々な説明が書いてあったら、みんなが助かって、楽しくらせてうれしくなると思っています。



くわはら あおい  
3年生 桑原 碧彩 さん

アイマスク体験学習をして、目が見えない人の怖さや不安が分かりました。  
もし目の不自由な人や高齢者の人たちが困っていたら、「大丈夫ですか？」と声をかけられる、安心してらせるまちになったらいいなと思います。



きやま あきと  
4年生 木山 諒音 さん

点字学習で、点字の書き方や読み方を知りました。  
赤穂は色々な歴史や伝統があってとてもいいまちだけど、目が見えない人や耳が聞こえない人の対策をしたら色々な人がもっと赤穂を好きになってくれると思います。



このぶ ふうあ  
5年生 是信 風愛 さん

高齢者疑似体験で、思ったように動けない大変さが分かりました。おじいさんやおばあさん、体の不自由な人がいても放っておく人じゃなくて、助けてあげるやさしい人がいっぱいいるまちになってほしいです。



たかもと れお  
6年生 高本 玲桜 さん

車いす体験をして、車いすに乗っている人の不安が分かりました。大人や子ども、目の見えない人、足が不自由な人、耳が不自由な人、みんな家族みたいに助けあっていけたら、いじめもなくなるし、誰でも毎日が楽しくなると思っています。



## 晴れの日に思いを寄せて

7月6日(土)・7日(日)の2日間、福祉会館3階において「貸衣裳展示会」を開催しました。

結婚式のモーニングに留袖、成人式の振袖などを展示し、240名のお客様にご来館いただきました。ありがとうございました。

貸衣裳事業の収益金は地域福祉を高めるための貴重な財源となっています。



## サロンは地域の集いの場

7月18日(木)、「ふれあい・いきいきサロン作り方講座」と「ふれあい・いきいきサロン実践者交流会」を開催しました。これからサロンを立ち上げようと考えている方や活動に興味のある方、現在サロンを運営している方、計51名がグループに分かれ、サロンの様子や日頃の悩みなど、情報交換が賑やかに行われました。



## いのちについて考える

7月13日・20日・27日(土)、福祉会館にて「第35回市民福祉講座」を開催し、延べ456名が聴講しました。1回目は「災害」、2回目は「人の縁」、3回目は「喪失」といったそれぞれの視点から命について考えさせられる内容の講座となりました。参加者は『今自分に何ができるのか』、真剣な顔で聞き入っていました。

# まち発見! あこう福祉ニュース



## 人に寄り添う支援とは

7月2日(火)、「赤穂市心配ごと相談所相談員・福祉サービス利用援助事業生活支援員合同研修会」を開催しました。当日は相談員・生活支援員22名が参加し、離婚と子どもについての講義を受けました。

さまざまな相談を受ける参加者にとって、身近で難しい問題について改めて考え、知識を得る良い機会となりました。



## 絵本と音のコラボ!

7月11日(木)・18日(木)の2日間、高校生・大学生の世代を対象にボランティア養成講座を開催し、延14名が絵本の読みがたりに効果音やBGMを加えた「絵本ライブ」を学びました。

参加者は、いつのタイミングでどの楽器の音を入れるか、グループで話し合い、大型絵本の「ねずみくんのチョコッキ」を使って、それぞれ実践発表しました。



# 令和元年度 三世代交流事業の助成先が決定しました!!

広報やホームページ等を通じて募集したところ、9団体の応募があり、4月25日(木)、7月5日(金)に審査会を開催し審査した結果、下記のとおり助成が決定しました。

交流内容は、あこう社協だよりで随時紹介していきます。



団体名	交流内容	助成決定額
南野中村民の会	手作り屋台で交流	30,000円
木下町自治会	三世代交流グラウンドゴルフ大会	30,000円
駅北自治会	三世代交流おでんづくり	20,000円
坂越を元気にする会	ゲームで交流しよう	20,000円
橋本町自治会	三世代ふれあい夏まつり	30,000円
いこいのひろば“たかお”	そうめん流しとすいか割り大会	30,000円
西町自治会	三世代交流ミニ夏まつり	30,000円
小島自治会	三世代ふれあい夏まつり	30,000円
松原町自治会	ふれあいグラウンドゴルフ大会	30,000円

## 三世代交流事業とは？

市内に活動の基盤を有する5人以上で構成する団体などが、三世代交流を推進する目的で、自主・自発的に新たな行事を行う際に3万円を上限として、助成金を交付します。(交付決定には審査あり)

※令和元年度の募集は締切しました。



## 三世代交流おでんづくり ~駅北自治会~

7月14日(日)、つばき公園にて駅北自治会主催による三世代交流行事が開催され、約110名が参加しました。お手製の美味しいおでんやフライドポテトを食べながら、大人はおしゃべり、子ども達は輪投げや歩回りのゲームなど、楽しく交流できました。

「天候があやぶまれましたが、にぎやかに開催でき、地域の絆づくりができました」と金谷自治会長は爽やかな笑顔で答えてくれました。

## ゲームで交流しよう ~坂越を元気にする会~

7月27日(土)、上高谷集会所にて輪投げやシャッフルボードなどのゲームを通じた三世代交流行事が開催されました。子どもから高齢者まで54名が、ゲームはもちろん、すいか割り、ビンゴゲーム等を楽しみながら交流を深めました。昨年よりも子どもの参加が増え、子どもたちの嬉しそうな表情に、周りの大人も笑顔になり、集会所は終始賑やかな歓声に包まれました。スタッフとして活躍した中島清さんは、「子どもたちからたくさん元気をもらいました」と話してくれました。



## 三世代ふれあい夏まつり ~橋本町自治会~

7月27日(土)、橋本集会所と第一公園において橋本町自治会及び竹北子ども会合同主催によるふれあい夏まつりが開催され、約230名が参加しました。輪投げや千本引きなどのゲーム、おでんやフランクフルトの出店など、子どもから高齢者までが“ふれあいスタッフ”となり、それぞれの持ち場で場を盛り上げました。この日を楽しみにしていた赤穂小学校3年の引本孔明さんは、「全部楽しかった。来年もやってほしい」とゲームで獲得した商品を見せてくれました。

一緒に遊ぼう!

## おもちゃライブラリー

おもちゃライブラリーは、おもちゃの中から好きなものを選び、自由に遊べる場です。また、貸し出しも行っていきます。



- 開催日 毎月第2木・第3土曜日 午前10時～正午
- 場所 総合福祉会館 1階教養娯楽室
- その他 利用料は無料。時間内であれば、好きな時間にお越しください。

おもちゃが壊れたら…

## おもちゃ病院に相談しよう!

おもちゃ病院では、ボランティアによるおもちゃの修理を行っています。壊れてしまったお気に入りのおもちゃ、ありませんか?

### おもちゃ病院の先生へ

お気に入りのおもちゃの音が鳴らなくなり、泣いていた娘。困っていた時にママ友からおもちゃ病院のことを聞きました。また娘の喜ぶ顔を見られるのが楽しみです。ありがとうございました。



- 修理受付日 毎月第2木・第3土曜日 午前10時～11時
- 場所 総合福祉会館 1階集会室
- その他 利用料は無料。(部品が必要な場合、有料) 状態によっては、お断りする場合があります。

## 「聞こえ」の啓発講座 参加者募集!



- 日時 9月7日・14日・21日・28日  
毎週土曜日<全4回>  
午後1時30分～3時30分
- 場所 総合福祉会館 1階多目的室
- 講師 要約筆記サークル  
「赤穂イヤモード」
- 内容 「聞こえ」のしくみや『要約筆記』、耳が聞こえにくい方とのコミュニケーション
- 対象 「聞こえ」について関心のある方  
※難聴者、その家族の方も参加可
- 定員 10名
- 受講料 無料
- 申込 ☎42-1397 または総合福祉会館へ  
ご来館のうえ、お申込みください。
- 締切 8月30日(金)

## ボランティアグループ 『地域の輪』講座参加者募集!

- 日時 8月31日(土)  
午前10時～11時45分
- 場所 市民会館  
1階第4会議室
- 内容 排泄ケア  
～意外に知らないおむつのこと～
- 講師 山内 なぎさ氏  
(看護師・おむつフitter1級)
- 定員 40名
- 参加費 100円(飲料・おやつ代)
- 申込・問合せ  
FAX 25-8625  
☎090-6500-9548 (小西) まで  
ホームページからの申込問合せ  
<http://tenohiraninegau.crayonsite.net>



あなたのやさしさを善意の窓口へ

## 善意銀行だより

あたたかい善意をありがとうございました  
預託状況(7月1日～7月31日受付分)



●委任預託 (敬称略)

住所	預託者	金額	預託内容
中 広	船 曳 敬 二	100,000	亡母(和子)満中陰志
中 広	楠 仁	100,000	亡祖母(暢子)満中陰志
中 広	佐 用 光 春	100,000	亡父(光雄)満中陰志
有年横尾	松 田 正 久	100,000	福祉のために

## 心配ごと相談所のご案内 (8月21日～9月11日まで)

- 【一般相談】 8月28日(水) 9月4日(水)  
9月11日(水)
- 【弁護士相談】(要予約) 8月21日(水)
- 【カウンセラーによるこころの相談】(要予約)  
8月28日(水) 9月4日(水)

※相談は無料。  
※時間はいずれも午後1時～5時までです。  
<問合せ先> 社協 ☎42-1397

# みんなの介護保険 Q&A

**Q 車いす生活になりました。  
入浴に不安があるのですが、何か良い方法がありますか？**

**A** 車いす生活では自宅のお風呂に入ることは難しくなりますよね。そのような時は座ったままや寝たままお湯に浸かることのできる特殊浴槽を備えたデイサービス等でお風呂に入ることができます。自宅での入浴をご希望の場合は専用浴槽を自宅のお部屋に持ち込み、寝たままお湯に浸かることのできる訪問入浴というサービスや、シャワーキャリア（入浴用の車いす）を使ってヘルパーの介助でシャワー浴をすることもできます。

**※まずは担当ケアマネジャーにご相談ください。**

## 賛助会費 ありがとうございます (敬称略)

【個人】	酒井 増二 島田 裕弘	中村 文代 目木 敏明	木村 音彦 有吉 一美	室井 久夫	玉田 耕生	藤本 敏弘
【法人】	赤穂労働者福祉協議会 末井スポーツ(有) (有)坂元板金塗装 赤穂パークホテル	(株)関工務店 赤穂仁泉病院 (株)総本家かん川	(株)元祖かもめ屋 千種の苑 あきた歯科	あこう典礼館 花みずき きむクリニック あこうぱん		

福祉の拠点をみんなで支えてください。

(法人会費：5,000円、個人会費：2,000円、一般会費：500円)

賛助会費は、社会福祉協議会の貴重な財源です。安定した地域福祉事業の充実や発展を図るためにも、皆様のあたたかい援助が必要です。ご協力をお願いいたします。

## 令和元年度 地域相互見守りモデル事業(地域となり組)のご案内 2次募集

子育て支援や高齢者の見守り、地域防犯活動など住民主体の地域づくり活動や住民交流の場づくり等を通じて、近隣住民が互いの顔の見える関係をつくることにより、世代・性別を問わず日頃から助け合いのできる地域コミュニティの構築に取り組む地域団体等を募集(2次募集)します。

**補助対象事業** 地域団体やNPO法人等が、地域において住民相互の見守り活動(子育て支援、高齢者・障がい者の見守り活動、地域防犯活動、見守り活動に係る居場所運営等)に取り組む事業

**事業期間** 交付決定日以降に実施され、令和2年3月31日までに終了する事業

**補助金額** 1地区あたり上限50万円

**補助対象団体** 県内に所在する次の団体

- (1) 地域団体(自治会、婦人会、老人クラブ、子ども会 等)
- (2) 地域団体による協議体(まちづくり協議会等の住民自治組織、連合自治会 等)  
(地域団体が中心団体として取り組む事業にNPO法人等が連携することは可)
- (3) NPO法人等 ※ただし、地域団体との連携が必須  
ただし、団体の構成員が5人以上であることとします。

**募集期間** 令和元年7月16日(火)～9月13日(金)

**応募方法・提出書類の様式等、詳細は兵庫県ホームページにてご確認ください。**

**問い合わせ先  
提出先**

兵庫県健康福祉部社会福祉局社会福祉課福祉企画班  
〒650-8567 神戸市中央区下山手通 5-10-1 県庁 1号館 4階 TEL:078-362-3181  
兵庫県ホームページ：<https://web.pref.hyogo.lg.jp/kf28/fukushikikaku.html>



◎ピカピカの一年生も一学期が過ぎようとしている今頃、登下校時の交通安全にもずいぶん慣れた様子です。梅雨に入り、傘が風にあおられ頭から足元までずぶ濡れになり、水たまりを遊びながら一歩一歩家路に向かう姿を遠回しに見ていると、いつになったら家に着くのかなあと思います。私も私の子どもたちも遠い昔、同じようなことをしてたっけと思いがちです。「風邪ひくなよ」と声を掛け、見送りました。

(3本足の力カシ)

『ちよつとらい話』募集

(応募方法)氏名(ペンネーム)・年齢・性別・電話番号を明記し、持参・郵送・Eメールのいずれかでご応募ください。2000字程度にまとめてください。  
※送付先は、下記をご覧ください。

～あこらのホツとな人～ No.28

今回は、地域の困りごと応援隊や移送サービスボランティア「てんとうむし」、キャップハンディ学習ボランティアや施設訪問などの幅広い活動をする傍ら、要約筆記サークル「赤穂イヤモード」の代表も務めている平山さんにお話を聞きました。



人と話すことが楽しみ!

平山 典子さん (元沖町)

Q. 活動を始めたきっかけは?

A. 元々人好きで、ボランティア活動に興味を持っていました。子育ても落ち着いて、子どもだけでなく自分も自立するために外に目を向けなければ…。そう思っていた時、社会福祉協議会でボランティア講座があり、参加したことがきっかけです。

Q. 活動をしていてうれしかったことは?

A. 話相手のボランティアをしている時に、最初はあまり反応をしてくれなかった方が、最後に「話を聞いてくれてありがとう」と、笑顔を返してくださった時です。心が通じ合えたと感じることができて、次回へのモチベーションや、やりがいに繋がっています。

Q. これからの目標は?

A. ボランティアは一生続けていきたいと思っています。以前辛いことがあった時、話を聞いてくれる方がいてとても救われたので、私も相手にとってそんな存在になれたらと思って活動しています。私と同じ世代の方のボランティアがもっと増えることを願っています。



■ 編集後記 ■

先日、ある自治会の座談会での出来事です。「電動車いすは右側通行か左側通行か?」との質問があり、赤穂警察署に確認したところ、「道路交通法上歩行者なので、右側通行が正しい」と教えていただき、一つ勉強になりました。自転車マナー等が社会問題となっている昨今、皆さんも正しい交通マナーを確認して気をつけていきましょう。(ち)  
今回の特集で、子どもの無限の可能性を感じました。子どもと一緒に私たち大人も頑張っていきましょう!(川)



赤穂市社協 検索

ご意見・問合せは ホームページもぜひご覧ください!  
社会福祉法人 赤穂市社会福祉協議会 〒678-0232 赤穂市中広267番地  
電話 0791-42-1397 / FAX 0791-45-2444  
E-mail ako-shakyo@ako-shakyo.jp